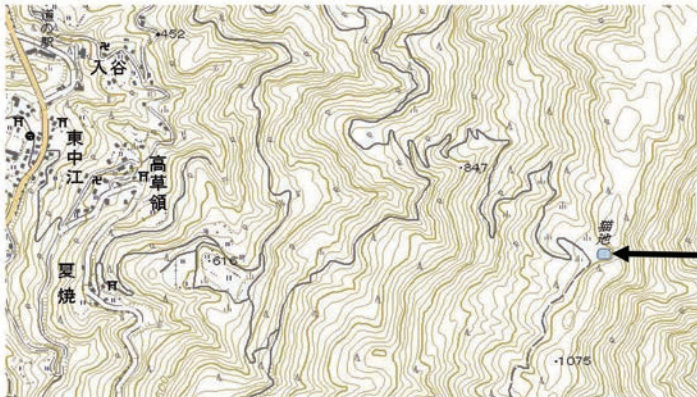


猫池とその周辺の生き物



猫池は南砺市南東部の旧平村高草嶺にある（北緯36° 26′ 19″、東経136° 59′ 42″）。旧東礪波郡平村と利賀村の境界線近くに位置し、庄川と利賀川の間稜線西側で、高草嶺（標高1,075m）の近くにある。湖面の標高は1,040m、大きさは南北63m、東西43m、面積2,200㎡、最深は2.5mである。池の名の由来は、高草嶺のある家の猫が夜いなくなり、翌朝雪の上の足跡をたどって行くと、頂上の池の中まで続き、猫が池の主になったという伝説による。

この池には流入・流出河川がなく、池の成因はいくつかの説があるが確定されたものはない。また、アゼスゲやヨシからなる大小いくつかの浮島があり、南砺市の名勝・天然記念物に指定されている。



猫池

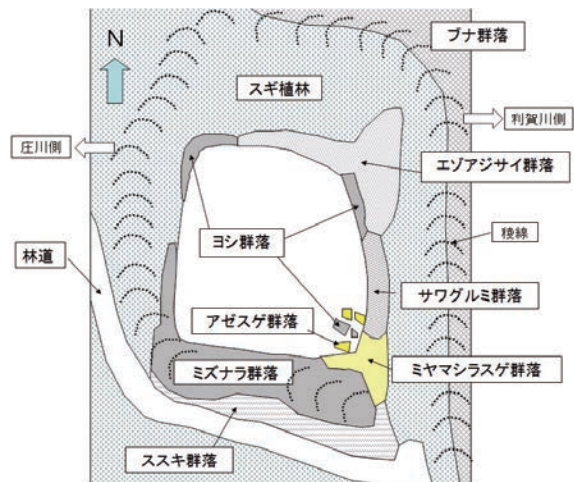
[調査年と分野]

調査は2006年に実施し、調査分野は、植生、土壌動物、水生小動物（水生昆虫、底生動物）、魚類、両生類である。

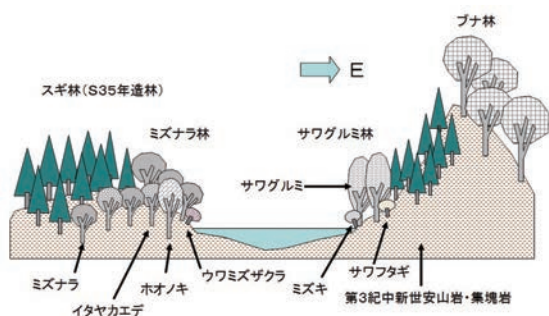
植物群落

池の水際に近いところはヨシ群落、ミヤマシラスゲ群落、エゾアジサイ群落が取り囲み、高さ10m以上の高木になるサワグルミ群落が東側、ミズナラ群落は南側に成立していた。

浮島は5個確認され、その内2つはヨシ群落が発達し、3つはアゼスゲ群落が発達していた。ミヤマシラスゲ群落にはエゾシロネやアシボソ、アゼスゲが含まれていた。この群落の一部が、切り離れて浮島になったと推定される。



猫池周辺の植生



猫池と周辺の植生断面模式図



猫池の浮島

土壌動物

浮島には、体長2mm以上の大型土壌動物であるニホンヒメフナムシが圧倒的に多く見られた。他はきわめて少なく、わずかにスジブトシリグモ、トゲザトウムシ、スジイシムカデ、クロヒメヤスデ、ナミコムカデなどが見つかった。浮島の土壌動物はダニ、トビムシ、ハエ目幼虫はかなり多く得られたが、他のグループは少なかった。個体数ではササラダニ類が最も多く、特にササラダニ類は成虫だけで57種確認された。湿地のミズゴケ群落を指標する種のうち、ホソミズコソダダニが多数確認された。



ニホンヒメフナムシ



ホソミズコソダダニ

水生昆虫

猫池では5目9種の昆虫が得られている。トンボ目ではオオルリボシヤンマ、タカネトンボ、エゾイトトンボが多く棲息する。その他、止水棲の半翅目、甲虫目、双翅目の数種が得られている。

両生類・は虫類

魚類は小型のフナ類が見られた。標高約1,040mの池であり、自然分布とは考えにくいのが、その由来はよくわからない。

両生類は、池にはアカハライモリとクロサンショウウオの幼生が見られた。アカハライモリやクロサンショウウオは山地の代表的な両生類である。周辺の枝にはモリアオガエルの成体や卵塊が見られた。県西部の標高1,000mくらいにある池は少ないが、これらの両生類は山地の代表的な種である。



モリアオガエルの卵塊

まとめ

標高1,000mにある小さな池で、スギの植林とブナ林に囲まれている。池はクロサンショウウオやモリアオガエルの繁殖場所になり、水中にはおそらく誰かが放したと思われるフナ類が生息する。池の周囲に生育するヨシとアゼスゲの群落が切り離されて、人が乗っても沈まない浮島を形成している。この浮島にはササラダニ類の種数が多いこと、ニホンヒメフナムシが多く見られたことが特徴である。